



Medi-Way 医療通訳者紹介 Vol.31 ベトナム語担当 ヒエンさん

◆なぜ医療通訳者になった？

近所に住んでいたベトナム人が膀胱結石になって、一緒に救急車で病院に行ったのがきっかけです。外国人は、日本に来る前に日本語を勉強することが普通だと考えられますが、日常生活の言葉は理解できても病院に行ったとき、先生にどうやって症状を伝えたら良いか困る人はたくさんいます。看護学部を卒業している私は、日本語と医療の専門的なことを理解

しているのも、何かできることがないかと考え、医療通訳を始めました。患者さまが診察を受けた時、「自分の今の状態を正しく伝えたい」「先生が言われることをしっかりと理解した上で治療方法を選びたい」ということなどに少しでもお手伝いが出来ればとても嬉しいと思っています。

◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

通訳対応が終わり、医療従事者の方から「会話が出来て助かりました」と言われたことがとても心に残っています。患者さまから「ありがとう」と言われ、少しでもお役に立てたと感じた時が一番嬉しいです。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

医療従事者の方と患者さまの間に円滑なコミュニケーションができるように、自分が実際に通訳したビデオなどを見直して、医療の基礎知識や専門用語、日本語の表現や言葉の使い方等について毎日振り返り、練習を続ける努力をしています。まだまだ不足していると思うところをしっかりと把握して、改善を心がけることが大切だと思っています。

「赤ちゃんを守る呪文??」



私たちの通訳センターでは、新しい生命の誕生に関わる通訳をお手伝いさせていただく場面が多々あります。担当した通訳士もその時を共有できたことで心から「おめでとうございます!」と自然と母語で発せられます。センター内もホッとするひと時です😊

赤ちゃんの可愛らしさには国境はなく、見かけると「可愛いね」「おりこうさんだね」などと声をかけられると、お世辞でも嬉しいものと思うところですが万国共通ではなさそうです。ベトナムでは赤ちゃんを直接褒めてはいけないうか。褒められるとその通りに育たなくなるという迷信?があり「よく食べる良い子だね」と言われると次の日から食べない子になってしまうとか…。どうしても褒めたいときには「Trộm Vía(チョムビア)」と呪文?を唱えてからなら大丈夫だそうです。これは、赤ちゃんを悪い精霊から守ってくれるそうです。日本では、ベトナムの人がとても多く生活されるようになりました。こんな一言も知っているといいのかもしませんね ^^ (ベトナムでも諸説あります)

今月のピックアップ

「高齢化社会と医療通訳の役割」



「少子高齢化社会」という言葉を耳にするようになって久しいですが、日本は2007年に65歳以上の高齢者人口の割合が総人口の21%を占める社会に突入。また、厚生労働省によると、75歳以上高齢者の全人口に占める割合は増加の一途で2055年には25%を超える見込みとの予測。こういった背景もあり全国的に「老年内科、高齢診療科」などといった専門外来が少しずつ開設されてきているようで、Medi-Wayにも時々通訳のご依頼があります。日本だけではなく、センターの通訳士の出身国でも高齢化は共通の問題です。その過ごし方も国ごとに特徴があり、ペルーでは「子供が親の世話をする」という価値観が根づいており、特に地方には専門施設が少ないということもあって、住み慣れた所で家族や親戚と一緒に過ごすことが多いとのこと。ベトナムもペルーと事情が似ています。オーストラリアでは自立を奨励し、自宅で過ごす場合は家族だけではなく、ヘルパーや近隣住民のサポートを得ることも。中国では家族が病院に付き添うことが難しい高齢者向けに、陪診(ページェン)という付き添いサービスがあり、利用者が増えているそうです。日本で最期を過ごす外国人高齢者の数が増えることが見込まれていく中で、医療通訳士も特有の医療問題に対応できるように研鑽が必要となっていきます。

